

第8課 図書館を利用しよう

■与格構文（3）

第3課、第4課に続き、「与格構文」のさらなるパターンを学びましょう。

मुझे कुछ किताबें चाहिए ।

मुझ+को

चाहिए

「私には数冊の本が必要です」

(1)意味上の主語を与格(〇+को)で表し、चाहिए を添えると、「〇にとって～が必要である」という文になります。

चाहिए はふつう無変化です。

मुझे हिन्दी साहित्य पर कुछ किताबें चाहिए ।

私はヒンディー文学に関する本が数冊必要です。

क्या मुझे किसी कर्मचारी से किताब निकलवानी चाहिए ?

मुझ+को

不定詞

चाहिए

「私には誰か職員に本を出してもらうことが必要ですか？」

(2)चाहिएに先立つ部分には、不定詞を置くこともできます。この構文では「〇は～する必要がある」「〇は～しなければならない」という意味になります。不定詞が他動詞の場合はその目的語に性・数を一致させます。例文では他動詞 निकलवाना「出してもらう」は目的語 किताब「本」(女性・単数)にしたがい निकलवानी となっています。चाहिए のほかにつぎのような語を用いた表現もあります。

(3)不定詞の後にコピュラ動詞 होना が続けば、必要性や予定を表します。

मुझे कल सेंट्रल लाइब्रेरी जाना है ।

私は明日、中央図書館に行くことになっています。

आपको आज से दो दिन के लिए डबल रूम में ठहरना है न ?

あなたは今日から2日間ダブルルームに宿泊のご予定ですね?(第9課)

(4)不定詞の後に動詞 पड़ना 続けば、やむを得ない必要性や強制されることを表します。

[आपको] अस्पताल में ही ठहरना पड़ेगा ।

(あなたは)病院に入院しなくてはならないだろう。(第11課)

ヒンディー語

◆自動詞・他動詞・使役動詞について

「出る」「出す」「出させる」のように同系の意味を持つ動詞には、原則的として√内の母音に आ を加えて派生語を作るという特徴がみられます。ただし、आ ではなく वा や ला が加えられたり、自動詞が受身の意味を備えていたり、実質的には他動詞と使役動詞の意味に差がない場合も多くみられます。この課ではつぎのような例ができました。

स्टेशन से निकलकर दाई ओर मुड़ना है।

駅から出たら、右に曲がるのよ。

आप स्वयं जाकर स्टैंक से किताब निकाल लीजिए।

あなたは自分で書架から本を出してください。

वहाँ से किताब कैसे निकलवा सकती हूँ?

私はそこからどうやって本を出してもらうことができますか？